

ずいそう

トライアスロンの頂点 「アイアンマンレース」完走までの道のり

森 田 博 史



私のアイアンマンレース完走の道のりの始まりは2010年、会社の同僚が参加した広島での宮島国際パワートライアスロン大会の応援でした。3人でチームを組んで、スイム2.5キロ、バイク55キロ、ラン20キロの合計77.5キロのコースを制限時間の7時間以内にゴールを目指します。テレビカメラやFMラジオの取材を受けるなど正に選手は主役で応援者の私は脇役でした。会社の同僚のチームは無事に制限時間以内に完走し、その夜の打上げには私も参加しました。その時に私は少々酔っぱらって「来年、私は選手で参加する!」と宣言してしまいました。これが私のアイアンマンレースの始まりでした。正に、15年前、40歳の事でした。

翌年2011年の参加に向け、まずはチームメンバー探しから始まりました。私は学生時代に競泳をしていた事もあり、私はスイム担当が確定で、バイク、ランの選手を探していました。そこでトラブルが発生。3月に趣味でやっていた小型バイクのレースで転倒し鎖骨の靭帯断裂のケガをしてしまい全治10か月。大会は6月、あと3か月で完治は見込めず、スイム担当は断念し、ラン担当のメンバーに変わってもらい私はラン担当となりました。何とか完走しましたが、制限時間の数分前のギリギリのゴールでした。

宮島国際パワートライアスロン大会にて2012年はラン、2013年は念願のスイムで参加し、2014年には念願の個人参加を果たし、無事にゴールしました。それ以降は個人で数多くのトライアスロンに参加し、全て完走し、2015年以降は駐在先のアメリカでレースに参加していました。いよいよアイアンマンレースに近づいて行くことになりました。

アメリカの駐在先であったサウスカロライナ州の日本企業会の会合に参加した際、自己紹介でトライアスロンが趣味である事を話しました。その後、一人の男性から「私も同じ趣味です」と言われ、是非、一緒に練習やレースに参加しようと誘われました。それが運命でした。その男性は友人3人と一緒にアイアンマンレースに参加している、まさに「鉄人」だったのです。



写真—1 2011年 初めてのトライアスロン



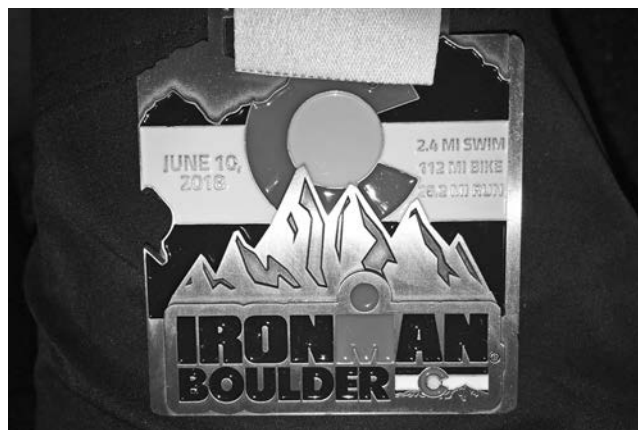
写真—2 宮島トライアスロンの私

その後、その男性の友人含め、数多くのトライアスロンレースに参加しましたが、2017年のある日の事です。その男性から「来年コロラド州、ボルダーでアイアンマンレースあるから参加しましょう!」と誘われました。アイアンマンレースの事を聞くと、なんと、スイム3.8キロ、バイク180キロ、ランは42.195キロ、合計226キロ、制限時間17時間、更には標高2,000メートルという超過酷なレースだったのです!

約1年間の過酷な練習を終え、友人3人と一緒に2018年6月10日のアイアンマンレースのスタートを迎



写真—3 2018年アイアンマンレースのゴール後



写真—4 アイアンマンレースの完走メダル

えました。朝6:30にスイムをスタートし、8:00ごろに炎天下でバイク。14:30に足がガクガクで、最後のマラソンをスタート。半分ジョグして、半分歩いて、21:00に真っ暗の中でゴール。タイムは制限時間以内の14時間30分で完走しました。友人3人も全員ゴールして最高の時間を過ごしました。

私はアイアンマンレース以外のトライアスロンではレース後半は、あと半分でレースが終わるという寂しい気持ちになりますが、アイアンマンレースでは、早

く終わって欲しい！二度と参加しない！という思いになりました。2019年に日本に帰任した事もあり、この大会以来、アイアンマンレースには参加していません。もし一緒に完走した、あの友人3人から、アイアンマンレースに誘われたら、エントリーしてしまうかも…。誘わないで欲しい反面、誘いを待っている自分がいます…。

——もりた ひろし コベルコ建機(株) 生産本部——

